

令和6年度 事業報告書 令和6年4月1日 から令和7年3月31日まで						
特定非営利活動法人 子育てネットワーク・ピッコロ						
<p>【1】事業の成果</p> <p>1. 子育て支援のために行う一時保育事業</p> <p>(1) ピッコロ時預かりは、公的な支援ではカバーしきれない部分の育児や家事の支援として、各家庭のニーズにそってきめ細やかに実施した。</p> <p>(2) 小規模保育室のピッコロルームでは、地域で行われるイベント（観劇）や消防署、農協などに足を運ぶ機会を持ち、日常の保育とは違う経験を通した成長の機会を持った。</p> <p>(3) 学童クラブ9箇所の運営を任せ、職員の人材育成のため外部講師を招いた研修を実施。勤怠管理については IT化を導入し一括管理へと整えた。</p> <p>2. 子どもと大人のネットワーク作り事業</p> <p>(1) K-netひろばは乳幼児親子がスタッフによる手遊びなどの時間とコーヒータイトという子どもと離れてお茶をする時間が人気の広場となっており、不定期の「リフレッシュ講座」では保育付きで手芸や体操などに母親が楽しむことができる時間を提供した。</p> <p>(2) つどいのひろば事業は急遽6～9月の間開所時間を18時まで延長となったが、スタッフ体制を整え、親子に十分に涼んでもらう場所の提供に務めた。工作やふれあいの遊びの講座、大学教授を招いた「子育て相談」を開催し、新規親子が足を運ぶきっかけを設けている。</p> <p>3. 子育てをサポートする人材育成・研修事業</p> <p>(1) 各事業においてスキルアップ研修などを実施するとともに、会員の集まり（定例会、正会員のつどい）において、新規事業の説明、注意事項など共有した。</p> <p>4. ファミリー・サポート・センター事業</p> <p>(1) ファミリー・サポートきよせでは、新たな周知活動として各月で市役所ロビーにて「ふあみさばサロン」を開催した。病児保育の依頼も増加傾向にあり、スムーズかつ安心して利用できるよう、アドバイザーが間に入り、丁寧に活動を行った。</p> <p>(2) 女子医大・東京医大ファミリー・サポートでは研修や講習会の制限が緩和され、保育サービス講習会や交流会を開催できた。</p> <p>(3) 東京医科歯科大学ファミリーサポートは東京科学大学ファミリーサポートに名称変更をし、活動を継続。4月より新事業として家事支援をスタート。そのための研修も新たに開催し人材を育成した。</p> <p>(4) 介護サポート・ピッコロは、介護への理解と支援を広く知ってもらう機会とするため無料イベントを開催した。新規入会もあり、継続的な支援となっている。</p> <p>(5) 東京女子医科大学・介護サポートでは、定期的に大学内にブースを設置し周知活動を図った。</p> <p>5. 家庭訪問型子育て支援事業</p> <p>(1) 7月より養育支援訪問事業に代わって「子育て世帯訪問支援事業」となり、精神疾患のある親の家庭やヤングケアラーなど課題のある家庭に訪問し家事支援などを行った。</p> <p>(2) ひとり親支援では、差し迫った状況にある母子・父子家庭からの利用希望があるが、支援者の協力を得ながら迅速に対応を行えた。</p> <p>(3) ホームビジター派遣事業では、外国籍や多胎児家庭へのビジターによる定期的な訪問により、地域における孤立を防止し、他支援へとつなげる活動をした。</p> <p>6. 子どもの育成を支援する事業</p> <p>(1) 赤ちゃんのチカラプロジェクトは市内公立中学校で赤ちゃんとのふれあい体験を行い、命の尊さを体感する機会として恒例行事として浸透しており、様々な世代、立場がかかわり合うことで「子育てがしやすいまち」として地域を挙げて取り組む事業となっている。</p> <p>(2) 日本財団助成 子ども第三の居場所事業「たんぼぼ」は、運営2年目として地域の畑へ作業に出向いたり、自治会などの地域住民を招いた多世代交流の機会づくりに取り組み、拠点への理解や協力関係を得ることができた。</p> <p>7. 本会の目的を達成する事業</p> <p>(1) 日本社会事業大学より実習生を受け入れ、各事業現場に入り広く活動を理解してもらう機会とした。地域住民参加型の保育を行うNPOとして、市長との面談や市の子育て関係の会議に参加し、団体としての意見を発信した。</p> <p>【2】事業の実施に関する事項</p> <p>(1) 特定非営利活動に係る事業</p>						
	内容	実施日時	実施場所	従事者の	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
子育て支援のために行う一時保育事業	ピッコロの保育サービス事業（個人・団体）	依頼日 依頼時間	利用者宅/支援者宅 団体保育場所	約50人	市内・近隣市在住親子延べ333家庭・114団体	10,400
	小規模保育室	月～金 7:30～19:00	ピッコロルーム保育室	8人	市内在住親子11家庭	33,679
	学童クラブ	学校登校日と土曜および長期休暇期間	梅園・清明・四小・清瀬第1・第2・第3・八小・十小・中清戸学童	約70人	対象児童約620人とその保護者	346,600
子どもと大人のネットワーク作り事業	K-net子育てひろば	毎月第2金曜日及び4・5・6・7・8・9・10・11・12・1・2・3月1回～2回 年間15回 10:00～14:00	清瀬市男女共同参画センター	10人	市内近隣市在住未就園児親子 705人	1,400
	K-net中里ひろば	年4回第3水曜日 10:00～12:00	中里地域市民センター	10人	市内近隣市在住未就園児親子 65人	
	K-netリフレッシュ講座	年8回 10:00～12:00	消費生活センター 児童センター	10人	市内近隣市在住未就園児親子 106人	
	K-netジュニアサポーター養成講座	年1回	k-netひろば・竹丘つどいの広場	10人	市内小中高生希望者 18人	
	K-net子育てサポータースキルアップ講座	年1回	ころぼっくるホール	11人	子育て支援者 20人	
	清瀬市つどいのひろば受託事業	毎週6日 10:00～15:00	元町つどいの広場・竹丘つどいの広場	10人	子育て中の大人と子ども約10,486人	10,391
子育てをサポートする人材育成研修事業	支援者の会	毎月1回	ピッコロのおうち・たんぼぼ	延べ80人	支援者120人	0
	ファミリーサポートセンター受託事業	依頼日7:00～22:00のうち依頼時間	利用者宅・支援者宅講習会・交流会会場	約300人	市内親子（依頼会員）約2,000組	15,050
	東京医大女性研究者支援事業・東京女子医大ファミリーサポート連携プログラム事業	依頼日7:00～22:00のうち依頼時間	利用者宅・支援者宅講習会・交流会会場	約200人	対象親子（依頼会員）243組	8,746

	内容	実施日時	実施場所	従事者の	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
ファミリー・サポートセンター事業	東京科学大学ファミリーサポート 対象に仕事と家庭の両立するための子育て支援	依頼日7:00～22:00のうち依頼時間	利用者宅・支援者宅講習会・交流会会場	約120人	対象親子(依頼会員)193組	6,067
	家族まるごと支援事業・介護サポート	依頼日7:00～22:00のうち依頼時間	利用者宅講習会・交流会会場	約10人	市内介護を必要とする会員5人	33
	東京女子医科大学・介護サポート会員制による相互援助活動	依頼日7:00～22:00のうち依頼時間	利用者宅講習会・交流会会場	約15人	介護を必要とする会員4人	5,253
家庭訪問型子育て支援事業	子育て世帯訪問支援事業	依頼日 依頼時間	利用者宅	約50人	育児支援対象家庭276件	351
	ひとり親家庭ホームヘルプサービス受託事業	依頼日 依頼時間	利用者宅	約50人	ひとり親家庭対象家庭995件	1,704
	清瀬市ホームビジター派遣事業(支援者が訪問保護者と共にボランティアで子育てを支援する)	依頼日 依頼時間	利用者宅	約50人	利用希望家庭25家庭	2,200
子どもの成育を支援する事業	清瀬市教育委員会委託事業「赤ちゃんのチカラプロジェクト」事業	公立中学5か所 6日開催	市内公立中学校5校 16学級	延べ103人	0～1歳の親子延べ86人、市内中学3年生592人	660
	日本財団助成事業「こども第三の居場所」事業	月水金13:00～19:00長期休みは時間延長	ピッコロのおうち・たんぽぽ	20人	利用希望の地域住民子ども延べ2973人 大人延べ665人	7,241
本会の目的を達成する事業	子ども家庭ソーシャルワーク実習生の受け入れ	計20日間	つどいの広場元町・ピッコロのおうち・たんぽぽ	1名	市内乳幼児～中学生の児童、保護者延べ100人	0
2. その他の事業						
なし						

449,775